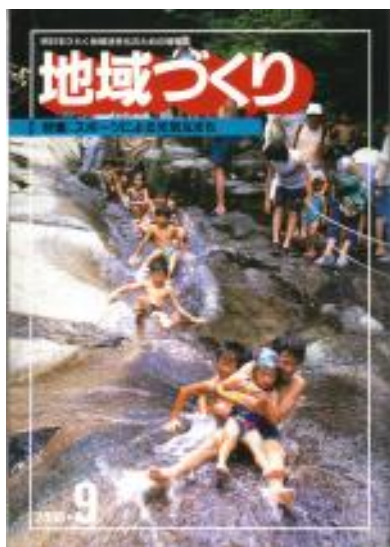


家族や職域のコミュニケーションの中心 パークゴルフ発祥の町、健康な汗流す

(NPO)国際パークゴルフ協会理事長 前原 懿 (C)2000.9
「地域づくり」No.135 ((財)地域活性化センター発行) に掲載



パークゴルフ発祥の地である私たちの北海道幕別町は、十勝平野のほぼ中央に位置する。パークゴルフ発祥の地である私たちのまち北海道幕別町は、十勝平野のほぼ中央に位置する。西隣の帯広市を核とする一次生活圏を周辺の町とともに形成し、人口は少しずつ増加して今年中には2万5千人を超えそうだが、面積の大部分は畑作を中心とした農地や丘陵に生い茂る林地などで、住宅地と調和がとれた緑豊かな町である。

そして、特筆すべきは公園緑地に恵まれていることである。そのことがパークゴルフを思いついたことと無縁ではないのだが、それにしても、私のちょっとしたアイデアから生まれた遊びがスポーツとして認知され、これほどの広がりを見るときは、初めは全くとっていいほど考えられなかったことである。

遊び心と 冒険心からの ひらめき



パークゴルフ発祥の
「つつじコース」

ここでパークゴルフの簡単な紹介をしてみたい。ボールは直径六センチの合成樹脂製、クラブはヘッド部分が木で、長さは86センチ以下、重さは600グラムまでとしている。コースはハーフ（パー33）が基本で、1ラウンド9ホール（パー66）を標準とし、ゴルフと同じく打数の少なさを競う。1ホールの距離は20メートルから長くても100メートルだから、1ラウンドをプレーしても歩く距離は1キロくらいのものである。

さて、パークゴルフが生まれたきっかけはごく単純なことで、昭和58年6月に教育委員会勤務となって間もなく、自分も楽しめるスポーツ的な遊びが欲しかったことと、ゴルフに対するあこがれもあって生まれた発想であった。

そこで、ニュースポーツとして人気のあったグラウンドゴルフを試してみたが、どうしてもイメージに合わず、失望しての帰り道、突然目に入ったのが運動公園の芝生と樹木であった。私にとって、その運動公園はまるでゴルフ場に見えてしまい、そこに穴を掘ってゴルフのように遊ぶことを脳裏に描いてみた。問題は公園に穴を掘ってしまうということだったが、時間のかかる手続きなどは念頭になく、公園管理の担当係長に直接話を持ち込み、一切を省略して行動することとなった。つまり、係長も私の話に共鳴してしまい、ややこしい手続きを忘れることにしたようである。

ホールカップは、水道管などに使う直径20センチの樹脂管を適当な長さに切って埋め、ピン（旗）は手ごろな太さの鉄筋に鉄板の旗を溶接し、手書きの数字を書いてホールに突き刺すという素朴なものだった。

子供のころ、遊びは創造であり、冒険であった。遊んではいけない場所に入り込むときの緊張感は今でも思い出す。パークゴルフが生まれた所以は、まさしく子供のころ遊びを創造した気持ちと同次元であったと今でも思っている。

町民こぞって熱中、 国際大会も



近隣に住む外国人を
招待する国際大会

「つつじコース」と命名されたパークゴルフ発祥のコースは運動公園の一角にある緑地空間を利用したものだが、男女の別なく、世代の壁もないスポーツ、ということで、たちまち町民の間に広まり、現在、町には13コースを数えるまでになった。町営は利用料が無料、民営（2コース）は有料だが、それでも1プレー300円という低料金である。コースの多くは公園などの緑地を活用し、最近では河川敷にも造られている。

文字通り老人から幼児まで楽しめる、ゴルフそっくりのスポーツとあって、町民こぞって熱中している。週末どころか、平日でも、どのコースも必ず何組もの人たちがプレーしている。早朝に1プレー、昼体みにもちょっと、そして仕事帰りの夕方からもう一回、という人は珍しくない。ヨチヨチ歩きの幼児でもできるので、家族全員のクラブをそろえている家庭もざらにある。

昭和62年、近隣の外国人を招待して「パークゴルフ国際大会」をやろうという話が持ち上がり、その受け皿として幕別町に「国際パークゴルフ協会」が設立され、第1回大会が開かれた。今年（今年）の第14回大会は6月24、25日に開催され、参加選手は外国人が35カ国130人、日本人が130人、計260人を数えた。

パークゴルフが誕生して今年（今年）は18年目になる。今や地域の職場のレクリエーションに取り入れられ、国際大会のほか、6月には北海道オープン、また7月の道民スポーツ大会では開催種目の1種目として競技が行われる。パークゴルフが町にもたらした効果や影響は極めて大きなものがある。心身の健康は言うに及ばず、家族や友達、近隣や職場など、人びとのふれあいを醸成し、コミュニティづくりに大きな役割を果たしている。クラブやボール、クラブケース、ポロシャツ、シューズ、キャップといった専用グッズを扱う商店が増え、パークゴルフクッキーやパークゴルフ弁当など地場産品も開発された。地域経済に及ぼしている効果も計り知れないものがある。

道外の自治体と ネットワーク



パークゴルフネットワーク会議
(2000年/石川県根上町で)

パークゴルフに熱心な自治体が道外にも広がっている。幕別町はこれらの町に呼びかけて「パークゴルフネットワーク会議」を興し、まちづくりの知恵を交換したり、交流を深めている。現在の参加自治体は、宮城県田尻町、富山県小杉町、神奈川県開成町、石川県根上町、それに幕別町の五町である。会議は毎年持ち回りとし、今年は根上町が当番町になって開かれる。

最後に、パークゴルフの現状をお知らせすると、愛好者は全国でおよそ50万人と推定している。コースの数は北海道で約700コース、道外には約100コース（40県）、国際パークゴルフ協会加盟団体は全国320団体に達している。そして国際パークゴルフ協会は今年6月、特定非営利活動法人（NPO）の資格を取得した。

海外には数カ国に紹介され、コースもできつつあるが、最近ではパラグアイやボリビアなどの日系人社会で盛んになっている。先日は米国アラスカ州アンカレッジ市長が幕別町を訪れた。干歳市と姉妹都市という関係でパークゴルフを知り、ご自身もすっかり気に入ったという。アメリカにおける普及を約束して帰られたばかりである。